平成 27(2015)年度事業計画書

一般財団法人 高度映像情報センター

（ ＡＶＣＣ ）

自　　平成 27 年 4 月 1 日

至　　平成 28 年 3 月 31 日

Ⅰ　はじめに

戦後七十年、節目の年を迎えました。昨年 9 月、鬼籍に入られた高度映像情報センター（AVCC）創業者・前理事長　久保田致長は戦後の復興期、国産初の 16mm 映写機と「結核の生態」等の健康教育映画を携え、全国津々浦々に映画による「学び」の出前を行うことで復興を後押しし、今日の高度映像情報社会の礎を築きました。AVCC は「何時でも、何処でも、誰でも、学べる社会」の実現という前理事長の遺志を堅持してまいります。

図-1　何時でも、何処でも、誰でも学べる社会

生前、前理事長の危篤状態を救ったのは最先端医療でした。しかし、この時の入院生活を転機にサルコペニア（筋力低下身体機能低下）が進行、卒寿で迎えた最後の理事会には車椅子での出席となりました。「在宅での診療・看護・介護」を希望していましたが、やむなく介護施設での生活となり、寝たきり状態で人との関わりが減り、認知症が徐々に進行していきました。「我が家に帰りたい」が口癖の晩年となってしまいましたが、AVCC が取り組まなければならない課題への示唆を、身を以って遺されたと感じます。この遺志を踏まえ 2015 年度の事業を進めてまいります。

(1) 自律した個人・組織・地域作り

AVCC は地域防災や地域活性化支援といった地方創生に資する事業を進めていますが、組織・地域での ICT 活用等システム面でのコンサルティングが主となっておりました。昨今、超高齢化少子化が進む中で「まち・ひと・しごと創生」「国土強靭化」が掲げられていますが、一番大切なのは国民一人ひとりの学びと自律ではないでしょうか。KK^2 プログラムを、組織・地域での「学び」に広げ、ICT 活用コンサルティングとのシナジー効果を生み、自律した組織・地域作りの後押しを進めて参ります。

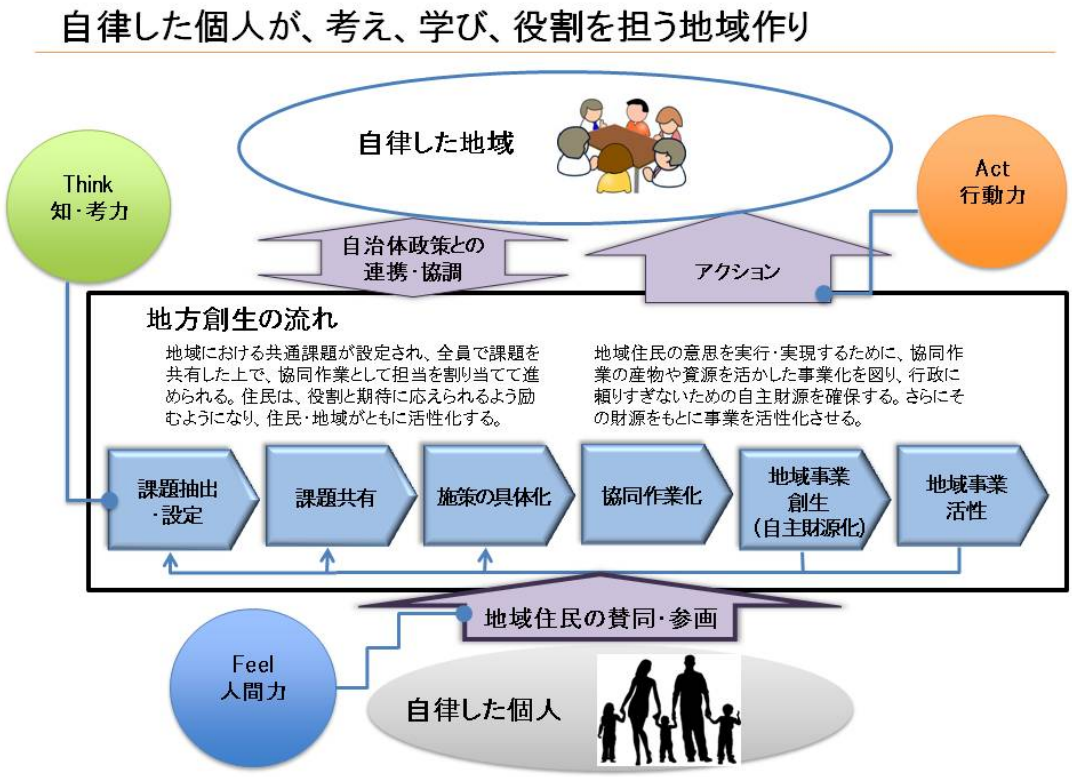
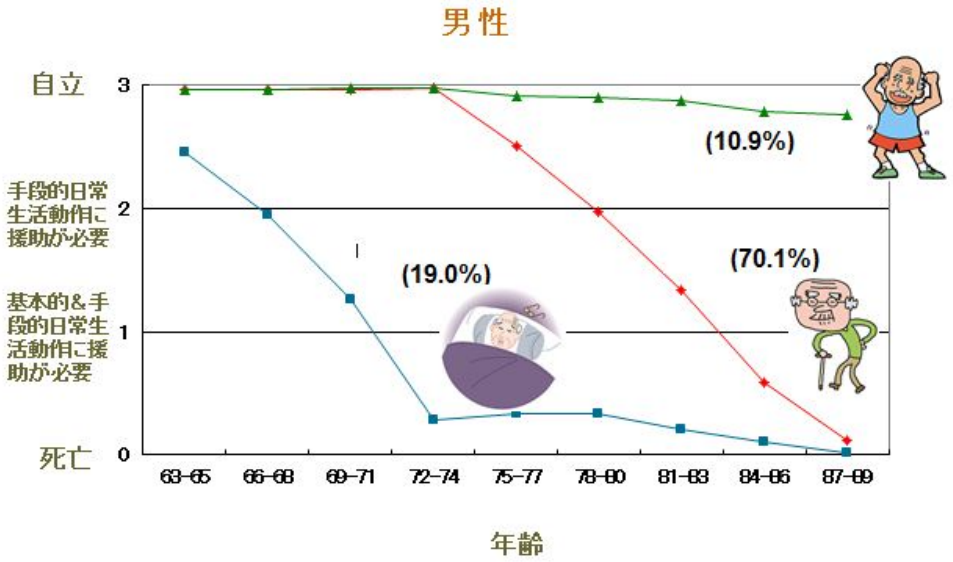


図-2 自律した個人・組織・地域

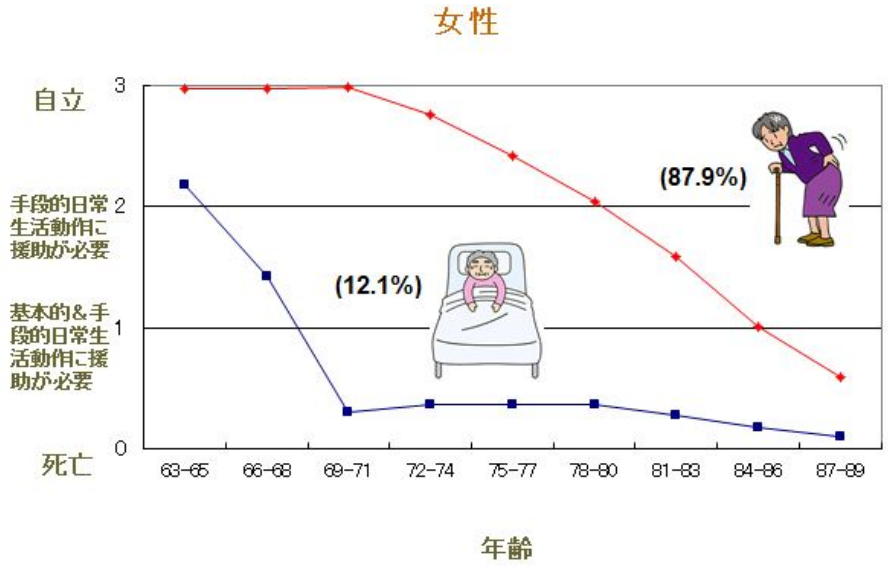
(2) 健康寿命を伸ばす学びと地域活動

10 年前と現在の高齢者の通常歩行速度を比べると、今の 75 歳は昔の 64 歳と同じというデータがあり、男女共に 11 歳程運動力は若返ったことになります。一方次の図で男女の自律度を比較してみます。



出典）秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想『科学』岩波書店, 2010

図-3 自律度 男性



出典）秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想『科学』岩波書店, 2010

図-4 自律度 女性

グラフの縦は自立の程度、[3]は自立して日常生活ができるが、[2],[1]と下がるにしたがって支援・介護が必要になります。男性では3つのパターンが見られ、19%の男性は70歳になる前に健康を損ねて死亡するか、重度の支援・介護が必要になる。80歳90歳まで自立を維持する人が11%、大多数の70%は75歳ころまでは元気だが、そのあたりから徐々に自立度が落ちています。女性では、12%が70歳までに重度の支援・介護が必要になり、88%の人たちが70代半ばから緩やかに衰えていきます。男女合わせると、約8割の人たちが後期高齢期に入る70代半ばから徐々に衰えはじめ、何らかの助けが必要になることが明らかです。

KK[2]では月一回「心とからだのストレッチ」を開催し、自分の体と心に向き合うプログラムを提供していますが、健康寿命を伸ばすには個々人の健康管理だけでなく、コミュニティの力も重要です。

第17回エキスパート・スタジオに出演された豊重哲郎氏は、「やねだん」住民一人当たり医療費・介護給付費が鹿児島県鹿屋市平均より 40 万円も安いというデータを示し、コミュニティ活動が盛んな集落の元気な高齢者達を讃えました。

図-5 やねだん

また 2013 年度「学びを通じた被災地コミュニティ再生支援事業」で復興について語った、陸前高田市にある岩手県立高田病院長（被災当時）石木幹人氏は、病院の負担で仮設住宅毎に畑を作り、被災住民のコミュニティが集団営農を始めたことで、高齢者が生き甲斐を持ち、認知症やサルコペニアが減ったと報告しています。

図-6 はまらっせん農園

このような good practice に学び健康寿命を伸ばす要点をまとめてみると、シンプルに次の三つのポイントが挙げられます。

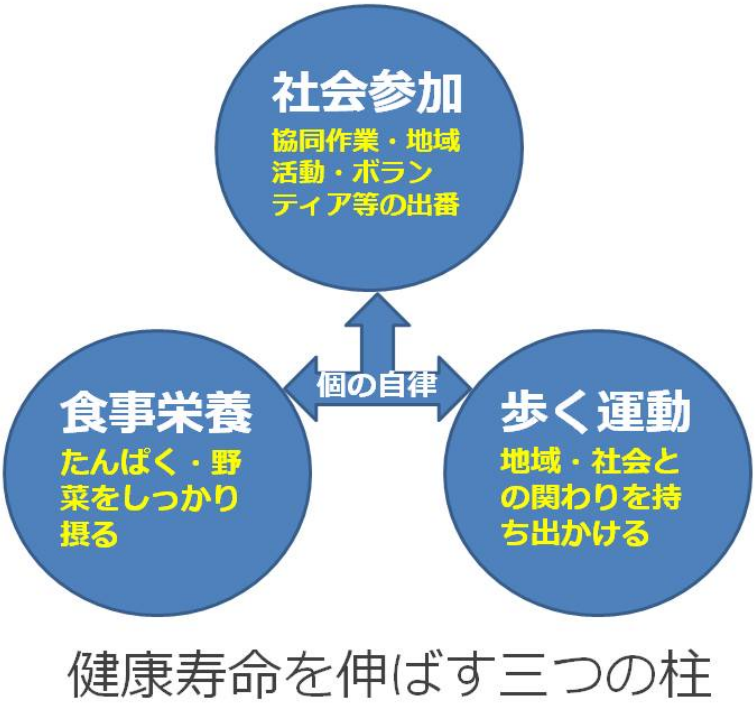


図-7 健康寿命を伸ばす三つの柱

AVCC は個人・地域での健康寿命を伸ばす三つの柱を基本とした活動を実施してまいります。

(3) 元気な高齢者に出番を作り弱者を支える地域活動

超高齢社会とは、多数の弱者と共生する社会（Normalization）です。2020 年オリンピック・パラリンピック開催に向けても、弱者が安心して住める社会の創出が課題です。10 年後の世帯構成は概ね、独居が 40%、夫婦二人が 30%、多世代が 30%となり、地域での「見守り」がますます重要になります。

第 12 回エキスパート・スタジオに出演された髙畑敬一氏は、「元気な高齢者が、弱者を見守り支援するボランティア」ニッポン・アクティブライフ・クラブ（NALC）の活動を熱く語りましたが、北海道の中標津支部では NALC 会員数が中標津町人口の 1%を超え地域に無くてはならないボランティア組織となり、身寄りのない高齢者が安心して老後を送れる「見廻りたい」活動が展開されています。地域での見守りは日本中どこでも抱えている共通課題です。全国でまだまだ元気な「団塊の世代」と呼ばれる世代が、「高齢者の自立」「生きがい」「助け合い」といった地域活動に積極的に参加することが是非とも求められます。AVCC は元気な高齢者に出番を作り弱者を支える地域活動を応援します。

(4) 医療に頼り過ぎず、在宅での診療・看護・介護ができる地域作り

日本人は病気や怪我に際して、すぐ救急車を呼び病院での最先端医療を頼ってしまいます。その結果、自宅で死亡する率が近年どんどん減り、80%を超える方々が自宅ではなく病院で亡くなっています。

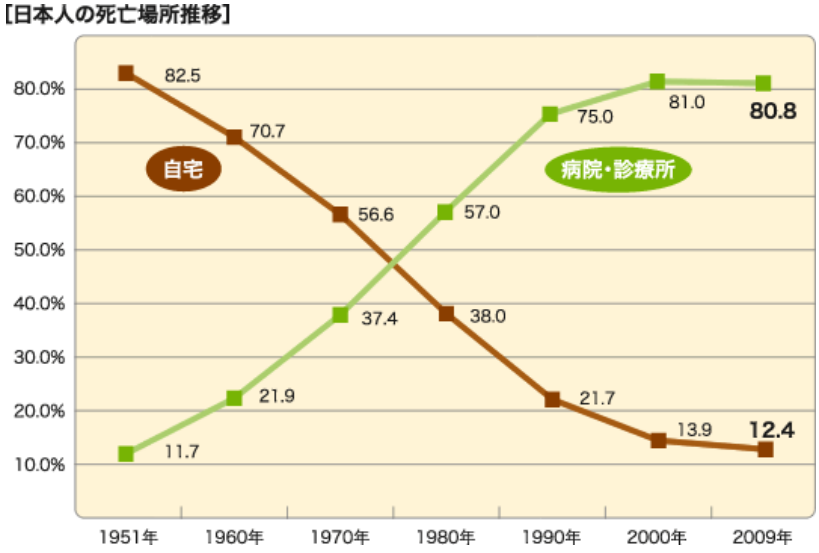


図-8　死亡場所

一方でこのように医療に頼り過ぎる状況が進めば、我が国の医療体制はいずれ立ち行かなくなることも自明です。こういった問題はステークホルダーが多く、自分達では何もできないと各人が向き合わなければ、だらだらと課題の先送りが続き、医療体制が崩壊していきます。在宅での診療・看護・介護については、good practice を収集し一人ひとりが考え学び行動するきっかけを作ることがまず重要です。実現に向けては多く住民がその気になって自治体・医師会に働きかけ、自律した地域運営を目指していく必要があります。AVCC は自律した個人・組織・地域を育み、「共に考え、共に学び、共に担う社会へ」を標榜し活動します。以下具体的な事業計画を記述します。

*参照 WEB ページ

①KK^2:霞が関ナレッジスクエア http://www.kk2.ne.jp
②一般財団法人高度映像情報センターhttp://www.avcc.or.jp
③プラチナ構想ハンドブック http://www.platinum-handbook.jp
④やねだん http://www.yanedan.com
⑤岩手県立高田病院 http://www.takata-hp.com
⑥特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ（NALC） http://nalc.jp

Ⅱ 霞が関ナレッジスクエア(KK^2)事業

KK^2(霞が関ナレッジスクエア)は、昼間人口 62,840 人(H22 年国勢調査より)、夜間人口 2 世帯 2 人(千代田区住基台帳より)という極端な夜間過疎の街(まち)千代田区霞が関にある、約 100 坪のコミュニティスペース(公民館)です。霞が関という特定地域に拘らず、ICT を活用して何時でも 何処でも 誰でも 学べる機会を時空を超えて提供しています。

KK^2 プログラムには、リアルな参加・ライブ配信での参加・WEB での参加が可能ですが、[アソシエイト][リーダー][シニア]と幅広い年代の方々のご参加いただいています。世代を超えて学び交流する、新しいスタイルの社会教育システム＝「デジタル公民館」を標榜しています。

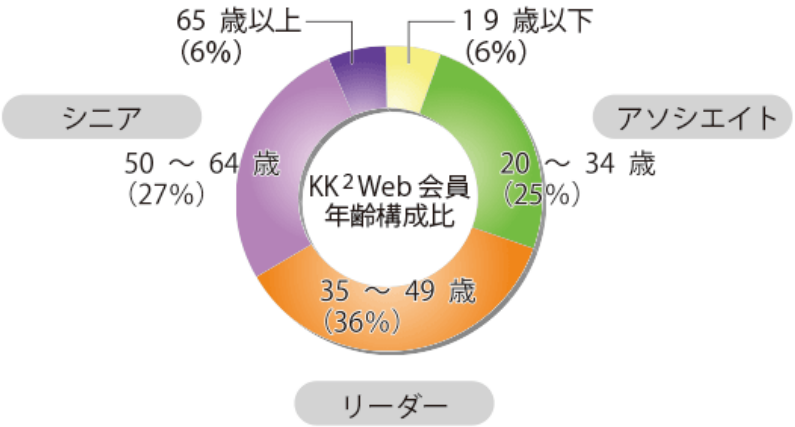


図-9 KK^2 で学び交流するのは幅広い年代の人たち

今年度も KK^2 は、我が国の「地方創生」「国土強靭化」に資する以下四つの事業を展開します。

(1) 人と人の絆と地域の再生
(2) しごと力向上・エキスパートと学ぶ
(3) 新しい役割を担うアクティブ・シニアを応援
(4) 文化に親しむ交流事業(KK^2 文化プログラム)

また、学校教育・企業内教育・地域での学びといった枠組みを超えた、個人・組織・地域での自律的な「学び」を支援します。

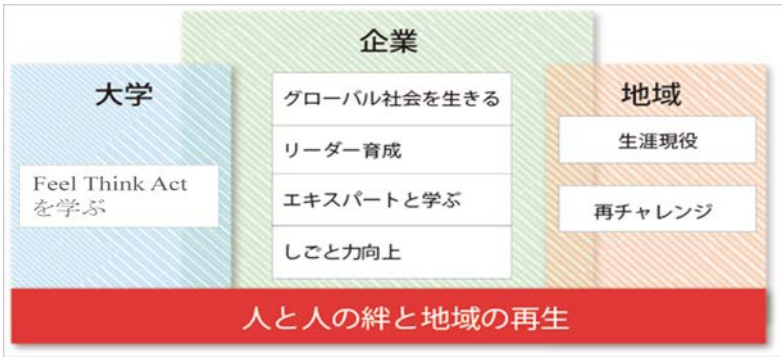


図-10 KK^2 は大学・企業・地域の枠組みを超えた学びを支援します

(1) 人と人の絆と地域の再生

KK[2] が 2011 年度から継続してきた岩手県気仙地区での「デジタル公民館まっさき」活動を通じ、行政は「ハードウェア」の復興で手一杯、人と人の絆やコミュニティの再生といった「ソフトウェア」は地域住民任せになっており、よそ者は継続して「寄り添う」くらいしかできないことを学びました。

にもかかわらず気仙に継続的にお邪魔する度に皆さまに親しく接していただき、「こんなにしていただいて心苦しく存じます」という勿体無いお言葉までいただき、とても優しい気持ちになり元気をいただくことができました。

しかし気仙から都会へ戻ると、「リスク避けまくり責任逃れまくる頭のいい人」「自らの思考を止め組織に埋没する他律的な人」「自分さえ良ければいい利己的な人」「異なる立場の人との対話力無い人」の横行に、暗澹(あんたん)たる気持ちになります。

それもこれも社会の現実ですが、国民一人一人がストレスに負けない「ちから」、困難に適応していく「ちから」、挫折をはね返す「心の弾力性」を磨き、自律した個人が役割を担い合う組織・地域作りを、日本社会に醸成(じょうせい)していくことが重要です。美しい自然に恵まれ、且つ災害の多い日本の国のために、「自分に何ができるのか？」 を真剣に考えることが、今、求められています。

－1 H27 年度「学びを通じた被災地コミュニティ再生支援事業」(採択予定)
「デジタル公民館まっさき」活動(平成 26 年度より継続)

大船渡市末崎町が復興から地方創生に取り組む体制としては、末崎地区公民館長をハブとする「17 集落公民館長のネットワーク」、首長部局から地区公民館嘱託 3 名が任命された「まちづくり推進員」、末崎町全体の振興に取り組む「末崎町振興会」があります。この三つの体制ではメンバーが重複し役割分担が明確ではなく、住民から見ても分かりにくいものになっています。これがオールまっさきとしての地方創生(まち・ひと・しごと創生)に向けた体制と人材づくりに大きな課題となっています。

KK[2] は「学びを通じた被災地コミュニティ再生支援事業」での採否に拘わらず、身の丈に合った持続可能な活動を継続していきます。"思い"ある個人・組織のご支援ご協力を心よりお待ち申し上げます。

① ICT 利活用による地方創生

平成 27 年度では、地域情報発信リーダーの育成・拡充を目指し、ネット／ネット応用・SNS 分野で 20 点を超える人材を 10 名以上に倍増するとともに、「概ねできるようになった」人材と協同して PC ネットよろず相談を行い、「人に教えられるようになった」レベル項目を増やします。また、情報発信に特化した勉強会を設け、ICT 先導的リーダーを 2 名程度育成し、現地からの自発的な地域情報発信を実現します。

② 末崎町の住民自治の後押し

研修会や講習会をきっかけとした自主活動などを通して、細浦地区、中央地区、碁石地区など末崎町の各集落個々の要望を踏まえ、末崎全体のバランスを考えた地域の共通課題を設定し、特色を生かした地域づくりを進めます。共通する課題、地域全体に利益をもたらす問題に協力して取り組むスキームと気運が醸成されることで、コミュニティとしての一体感ができ、末崎町での住民自治が強化されます。嘱託職員だけで運営管理している末崎地区公民館の地域教育コーディネーターを育成し、地域の課題解決事業に自主的に取り組む公民館へと進化させます。末崎町住民自治の後押しをします。

③ 住民個々の ICT 活用支援と地域情報の発信

ICT スキル知識を持つスタッフの訪問が、唯一 ICT 利活用による課題解決の機会になっています。また、スタッフによる傾聴活動の継続により住民との信頼関係が深まっています。ICT 活用による住民自身の生活改善と地域情報の発信を実現します。

④ 地方創生への機運の醸成

地域における共通課題が設定され、全員で課題を共有した上で、協同作業として担当を割り当てて進めていきます。住民は、役割と期待に応えられるよう励むようになり、住民・地域がともに活性化し、地方創生への機運を醸成します。

⑤ ICT 環境の整備・管理・運用（ふるさとセンター・小中井仮設住宅集会所）

既設の ICT 環境は被災地での運用が技術的に難しい為、引き続き KK[2] よりリモートで管理・運用を行います。本年度も NTT 光通信サービス、IPS、無線 LAN、ノート PC によるインターネットのアクセス環境、「デジタル公民館まっさき」Web サーバ・メールサーバの提供と運用を行います。

⑥ Web サイト運用「デジタル公民館まっさき」の活性化 （http://www.massaki.jp/）

毎月 20 日発行、末崎地区 1,500 世帯、5つの仮設住宅住民に戸別配布される紙媒体「館報まっさき」の紙面や公民館の各部屋（会議室、研修室、和室、調理室、体育室）の使用予約状況のデジタル化とネット公開など、リアルな公民館活動のデジタル化と情報公開を行います。また、前述の学習プログラムの映像収録と動画コンテンツの公開、地域活動、地域情報の収集と発信等を行います。

［デジタル公民館まっさき TOP］

－2　心と体のストレッチ　～身につけよう、キズナヂカラ～

「日常」の積み重ねが「非日常」を超える！をテーマに、日々自分の心と体に向き合うことの大切さ、人と人とのきずなづくりの大切さについて実感できるプログラムを平成 26 年度よりスタートしました。高齢者の健康寿命を伸ばすことにも繋がるこのプログラムは月に1回、金曜日の夜、仕事帰りに気軽に参加できるプログラムです。終了後の交流会で講師、参加者とコミュニケーションできます。今年度年 10 回予定です。

［平成 27 年 2 月 20 日開催　活動風景］

－3　災強！霞が関防災キャンプ
～帰宅困難を体験して「防災体質」になろう～

災害発生により帰宅困難者となったという想定で、参加者は制約のある環境下、見知らぬ者同士で助け合いながら KK^2 で一晩を過ごすという体験を通じて自分たちで考え、学び、気づきを得ることを目的としています。プログラム終了後メーリングリストで約 3 週間にわたって講師と参加者が交流を行い、それぞれの課題をクリアすることで、防災意識を継続していき「防災体質」を目指します。平成 26 年度よりスタートし、延べ 100 名の方にご参加いただきました。今年度 2 回開催予定です。（10/16（金）-17（土）、3/11（金）-12（土））

［平成 27 年 3 月 13 日開催　活動風景］

－4　「霞が関オープンランチミーティング」開催

2011 年 1 月スタートした中央省庁の若手官僚、NPO リーダー、企業の CSR 関係者、KK^2 スタッフによる「霞が関オープンランチミーティング」（月 1 回開催）は、3.11 をきっかけに、被災地の復興を支援する官民のインフォーマルな情報交換の場となり、各メンバーの立場でできることを持ち寄り復興から地方創生に向けた連携協働を進めております。今年度も月1回開催予定です。

［平成 26 年度　活動風景］

(2)しごと力向上・エキスパートと学ぶ

KK^2 では、社会に貢献している人、活躍する人、優れた仕事をする人を「エキスパート」、エキスパートが備える能力を「しごと力」と命名、Competency(活躍する人の行動特性)、「Feel(人間力)、Think(知・考力)、Act(行動力)」と、Skill(技能)、Knowledge(知識・理解)の 5 分類 17 項目のカテゴリーに定義分類しています。提供プログラムにはすべてこのカテゴリーを付与しています。

[KK^2「しごと力の分類表」]

Ⅰ Competency:コンピテンシー	Ⅰ-1 Feel:人間力	Ⅰ-1-(1) 自己認識力
		Ⅰ-1-(2) 感情マネジメント力
		Ⅰ-1-(3) 共感力
		Ⅰ-1-(4) コミュニケーション力
	Ⅰ-2 Think:知・考力	Ⅰ-2-(5) 状況把握力
		Ⅰ-2-(6) 原因究明力
		Ⅰ-2-(7) 選択決定力
		Ⅰ-2-(8) リスク分析力
	Ⅰ-3 Act:行動力	Ⅰ-3-(9) 実行力
Ⅱ Knowledge:知識・理解		Ⅱ-(10) ビジネス
		Ⅱ-(11) 法律
		Ⅱ-(12) 健康
		Ⅱ-(13) 生活・文化
Ⅲ Skill:技能		Ⅲ-(14) ビジネスマナー
		Ⅲ-(15) ビジネススキル
		Ⅲ-(16) IT スキル
		Ⅲ-(17) マネジメントスキル

Competency 「Feel（人間力）、Think（知・考力）、Act（行動力）」の詳細は以下の通りです。

Ⅰ-1 Feel：人間力

「人間力」とは、人とよりよい信頼関係を結ぶことができる力です。信頼関係を結ぶためには、人間の根本のレベル、感情面のやりとりから捉える必要があります。

人間力は「自己認識力」「感情マネジメント力」「共感力」「コミュニケーション力」の4つのカテゴリに細分化しました。

Ⅰ-1-(1) 自己認識力

①自分におきている複数の感情を認識することができる。

②自分におきている感情をもたらしている原因を認識することができる。

自分の感情、気持ちを理解することにより、マイナスな感情を方向転換（マネジメント）することができます。また、それをきっかけに相手の気持ちを想像することができるため、相手を思いやることができるようになります。

Ⅰ-1-(2) 感情マネジメント力

③自分におきている感情を理解した上で、建設的で冷静な判断・選択をすることができる。

④くじけそうなときに自分を奮い立たせることができる考え方（楽観主義）ができる。

感情を相手にぶつけて怒ったり、逆に自分の中に抑制させ落ち込んだりするのではなく、自分の感情を理解することにより、冷静で適切な対応をとることができます。怒りなど不快な感情は、何か問題があるからです。感情のマネジメントによって冷静になり、本質的な問題の解決に進むことが大切です。

Ⅰ-1-(3) 共感力

⑤自分の視点ではなく、相手の視点に立って、相手の考えや感情を理解することができる。
⑥相手の感情を理解するために、非言語的理解ができる。

相手を大切にするという気持ちが根底にあると、信頼が得られやすく、オープンに理解し合うことが容易になります。人に自分を理解してもらい、思いやりのある態度を示してもらったうれしさは誰もが経験しています。共感力は人間関係の鍵ともいえます。

Ⅰ-1-(4) コミュニケーション力

⑦人の多様な意見、価値観を認めることができる。
⑧はっきりと自己表明をすることができ、誤解の少ない人間関係をつくることができる。
⑨相手の感情を把握して、伝えたいことが間違えなく伝わるための話の構成を組み立てることができる。

コミュニケーションは、相手の話を聞く部分と、自分の話をしっかりと表明する部分から成り立ちます。よりよいコミュニケーションのために、相手に共感することがひとつの重要な道具とすると、率直に自分の考えと気持ちを相手に伝えることができることは、もうひとつの重要な道具ともいえます。

Ⅰ-2　Think：知・考力

仕事はもちろん、日常生活でも日々私たちは大小さまざまな問題に直面します。この次から次へとおこる問題を対処していく知・考力はとても重要になります。

知・考力は「状況把握力」「原因究明力」「選択決定力」「リスク分析力」の4つの項目に細分化しています。

Ⅰ-2-(5) 状況把握力

①先入観や不確かな情報にとらわれず、状況を正しく認識できる。
②事実を得るために、できるだけ正確な情報を入手することができる。
③収集した情報をもとに課題を整理し、想定できる対策を明確にすることができる。

問題解決の第一歩は、何が問題で、何が課題なのかを明確に確認すること、つまり「問題に関する状況把握」が重要です。できるだけ正確な情報を収集できる方法を検討し、問題を構成する要素を明確にすることが大切です。

Ⅰ-2-(6) 原因究明力

④問題の内容を整理、分析し、キーとなる原因の絞り込みができる。
⑤問題の原因と想定されるものの裏付けをとることができる。

問題が発生した時、なぜその問題が起きたのかという原因を突き止めなければ、解決の糸口は見つかりません。専門的な知識だけではなく、どこに問題の原因があるのかを突き止める思考の手順を理解し、次のステップである再発防止の仕組みづくりも必要です。

Ⅰ-2-(7) 選択決定力

⑥選択決定にあたって足りない情報がないかどうかを確認する。またメリット、デメリットを整理することができる。

⑦選択決定をすることで、望ましい目的・状態を明確にすることができる。

選択決定とは、自分にとって望ましい目的・状態を思い描いて、そこに到達する手段の中で最も効果的で、犠牲が少ないものは何かを考えることです。それぞれの選択決定を正しく行うことができるかどうかは、あなたの生活や仕事の成果などに大きく影響します。

Ⅰ-2-(8) リスク分析力

⑧想定される具体的リスクを整理することができる。

⑨リスクが発生しないための対策を検討し実施することができる。また、リスクが発生すると想定される原因についての対策も行うことができる。

⑩リスクが発生した場合の対策を明確にすることができる。

計画を立てたがうまくいかなかったということは誰にでもありますが、理由としてリスクについて検討していなかったということがあげられます。リスクとは、計画の実現が不可能になったり、計画を大きく変更せざるを得なくなるような障害のことをいいます。

Ⅰ-3 Act:行動力

人は、行動・実行することによって、はじめて環境を変えることができますが、そうたやすいものではありません。目標を明確に認識し、それに向かって具体的な方策を検討するということによって行動・実行力を高めることは可能です。

Ⅰ-3-(9) 行動力

①最終到達目標を明確化し、自覚することができる。

②目標達成に必要な要素（必要条件）を明確にし、その要素をクリアするための具体的な行動計画（スケジュール、予算を含む）を立てることができる。

③実行過程において想定外のリスクへの備えも準備することができる。

行動・実行は、感情ややる気といった内側からの情熱ももちろん重要ですが、実現するためのステップをしっかりと踏まなければ、その可能性は低くなってしまいます。実行することは、最終のアウトプットでもあり人間の活動には大変重要なものです。

「しごと力向上・エキスパートと学ぶ」では、以下の通り様々なプログラムを提供します。

－1　社会で活躍する人のしごと力を学ぶ「エキスパート・スタジオ」

「エキスパート・スタジオ」は、様々な分野で活躍するエキスパートをゲストに迎え、「仕事とは」「働くとは」「働く喜びとは」について考え学ぶインタビュー形式のキャリア教育番組です。ゲストは、さまざまな職業で活躍する若い世代から、人生二周目で社会の課題解決に挑戦するアクティブシニアまで、目の前の課題に全力で挑戦するエキスパート達です。

［平成 26 年 12 月 1 日開催　第 33 回プロゴルファー石原端子さん（沖縄大学文学部福祉文化学科講師）］

「アソシエイト」「リーダー」「シニア」各層の参加者が、エキスパート達の考え方、行動、しごと力、コンピテンシーを紐解き、それぞれの目標となる「ロール・モデル」を見出すことが狙いです。昨年度で 35 人のエキスパートを紹介しました。今年度も 6 名のエキスパートを紹介する予定です。

－2　しごと力道場　～思考力を高める対話型トレーニング～

「リーダー」層を対象に普遍的なテーマについてディスカッションを行い「自分で考える力」「自分を客観的に評価する力」を養う、リーダー育成を目的とした「しごと力道場」を開催します。参加者は 10 名程度の少数とし、年 3 回開催の予定です。（06/27（土）、10/31（土）、 02/27（土））

また、継続的な参加により思考力を高めることができるプログラムのため段位認定を行っています。参加回数に応じて、白帯（1 回）、茶帯（3 回）、黒帯（5 回）の認定証の発行しています。

［平成 27 年 2 月 7 日開催　第8回しごと力道場テーマ「プロとは何か」］

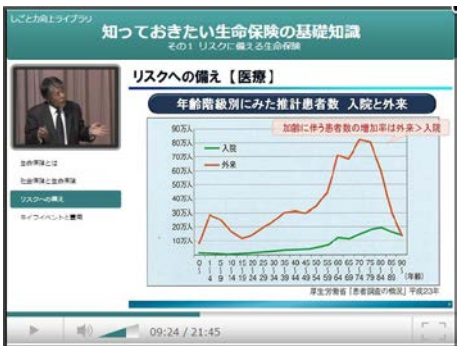
［認定証　黒帯］

－3 しごと力向上ライブラリー

学校での知識偏重教育、企業での業務遂行やコンプライアンスを目的とする教育に対して、「しごと力」の学習は自己責任に帰す傾向が強くなり、むしろ後退しています。

いつでもどこでも誰でも学べる「しごと力向上ライブラリー」は 72 講座 204 単元(2015 年 3 月現在)を既に開発しています。KK[2] メンバーの組織的なご利用や、教育研修体制の弱い中小企業等でのご利用をいただくために、さらなる周知活動を行います。

今年度も毎月 1 単元新プログラムを開発してまいります。



[平成 27 年 2 月公開「知っておきたい生命保険の基礎知識」ニッセイ保険エージェンシー株式会社 代表取締役社長 正殿博章氏]

－4 カウンセリングプログラム

「アソシエイト」「リーダー」層を中心に「自分にはどんな仕事が向いているか」、「どんな仕事をするべきか」、そして「どんな仕事ができるのか」・・・このような問いについて、長年、国内外で多くのキャリア相談を手がけてきたスペシャリストが面談を行います。 明確な答えが出るというものではありませんが、自分の悩みや課題を整理して第三者に聞いてもらうよい機会になります。

実施にあたっては NPO 法人日本キャリア開発協会（JCDA）の協力を得て、月曜日から金曜日の週 5 日、16:00/17:00/18:00/19:00 の 4 枠で、ネットより予約を受け付けています。初回無料（2 回目から有料：4,320 円 税込）、カウンセリング時間は 1 回 40 分程度。今年度も引き続き実施します。

－5 キャリアカフェ

カウンセリングプログラムと連携し、様々な分野で活躍している方を「キャリアメンター」としてお招きし、自分の「しごと」や「キャリア」について語っていただくプログラムです。司会者と、10 人程度の参加者という小規模なスタイルで、率直な質疑と交流を行います。今年は、年数回開催予定です。

[平成 26 年 9 月 11 日開催 第 12 回キャリアカフェ KERA さん （ダンス エンターティナー）]

－6　good books

KK^2 では、 (1)人と人の絆、地域の再生、(2)しごと力向上・エキスパートと学ぶ、(3)社会の課題を担うアクティブシニアを応援、という三つの視点で推薦書籍を厳選し、H26 年度までで 300 冊の KK^2 good books を選んできました。

今年度も毎月 5 冊程度の good books を選び、約 500 文字程度の紹介文としごと力カテゴリー分類とともに、書籍情報を提供します。よい本を読みたいと思っているが、図書館や書店で本を選ぶ時間がとれないというみなさんに、本を読むきっかけを提供していきます。

－7　イノベーションプログラム

文部科学省他各省の人材育成施策を踏まえ、「産学官連携」「大学間連携」といった大学の地域での様々な活動（Good Practice）を紹介するプログラム。KK^2 として注目する「社会貢献」「観光活性化」等地域再生の課題と「キャリア教育」「就業力支援」といった人材育成を取り上げ、ネットワークを生かして全国を繋ぎ、知の創造をめざすプログラムです。今年度も、伊藤健二主席研究員を中心に年に数回開催予定です。

[平成 26 年 12 月 11 日開催　第 18 回イノベーションプログラム「地域名産品の開発・発信における産学連携　－地域創生に向けた、農水省の政策と大学の役割－」]

－8　コンピテンシー・チェック

社会に貢献している人、社会で活躍する人、優れた仕事をする人が備える「しごと力」の中核となるコンピテンシー「Feel（人間力）、Think（知・考力）、Act（行動力）」について理解し、自分自身の学習課題を知るプログラムです。KK^2 サイトで公開するだけでなく、学習者を LMS で管理し個人の学習履歴を収集提供するサービスも行っています。昨年度に引き続き、今年度も早稲田大学人間科学部の講座で活用いただく予定です。

[コンピテンシー・チェック web 画面
「共感力　ケーススタディ「父親の転勤」」]

(3)新しい役割を担うアクティブ・シニアを応援

地域再生には、「シニア」の経験と知恵と力が必要不可欠です。社会の課題解決にチャレンジする元気な「シニア」の活動を応援します。

平成26年10月6日　開催　第32回「エキスパート・スタジオ」吉原なみ子さん(血液由来感染症研究者)

－1　生涯現役版「エキスパート・スタジオ」

定年退職後、企業人間から地域人間へ、新たなフィールドで課題解決に活躍する「シニア」をゲストに迎え、人生二周目のやりがい・生きがいやこれからの夢などを語っていただきます。「生涯現役社会」といわれる一方、実際には社会に受け皿がないのが実情です。活躍するシニアの方々を紹介する「エキスパート・スタジオ」を積み上げていくとで、ロールモデルを見つけていただきいと考えています。

前述「(2)しごと力向上・エキスパートと学ぶ　－1　キャリア教育番組「エキスパート・スタジオ」」の一環として、アクティブシニアをご紹介してまいります。

[これまでご紹介した生涯現役版　エキスパートのみなさん]

第32回　吉原なみ子さん	血液由来感染症研究者	独立行政法人国際協力機構(JICA)感染症専門家/元国立感染症研究所　エイズ研究センター室長
第30回　塩谷靖子さん	ソプラノ歌手	
第29回　柴田文啓さん	僧侶	臨済宗妙心寺派開眼寺　住職
第19回　堀池喜一郎さん	ソーシャルプロデューサー	好齢ビジネスパートナーズ　世話人
第17回　豊重哲郎さん	ソーシャルアントレプレナー	やねだん　自治公民館長
第13回　安藤友彦さん	農業家	
第12回　髙畑敬一さん	ソーシャルアントレプレナー	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ会長
第11回　藤原瑠美さん	ソーシャルプロデューサー	福祉の勉強会「ホスピタリティ☆プラネット」主宰
第10回　酒井睦夫さん	地方議会議員	千葉県流山市議会議員

(4) 文化に親しむ交流事業(KK^2 文化プログラム)

文化に親しみ、人と人との交流の場を提供する「KK^2 文化プログラム」は、文化庁「霞が関から文化力プロジェクト」事業として展開しています。

－1 「KK^2 文化プログラム」出演アーティスト公募事業(KK^2 エントリープログラム)

KK^2 は 2008 年の開設時より、さまざまなアーティストの発表の場を提供し、近隣のビジネスパーソンに文化や音楽など気軽に楽しんでもらう機会を提供してきました。

昨年度新たな試みとして、様々な分野で技術や芸を磨き、その発表、公演の場を求めているアーティストを募り、場所を提供する「KK^2 エントリープログラム」をスタートしたところ、多数のアーティストより応募いただきました。今年度も引き続き募集を行います。年数回開催予定。

－2 霞が関寄席

熱心に芸を磨く落語家、講談師の方々に高座に上る機会を提供し応援するプログラムです。仕事に忙しくストレスの多いビジネスパーソンに、伝統芸能に親しみ、笑い、ストレスを発散し、リラックスする場を提供します。年数回開催予定。

－3 霞が関ミュージックサロン

一流の演奏家による音楽やカルチャー、伝統芸能に親しんでいただけるプログラムを(株)ミュウカルと共同開催しています。海外在住日本人演奏家の一時帰国にあわせたミニコンサート、また触れる機会が少なくなっている日本の伝統芸能古典芸能に親しむミニコンサートです。年数回開催予定。

－4 食と文化講座

2008 年より開催してきた「ワインセミナー」を昨年度より「食と文化講座」に変更し、さらに広く食と文化を楽しく学んでいただける講座です。今年度は、日本の地域の魅力を食と文化で発信するプログラムを開催予定です。実際に味わっていただき、そして参加者、講師と交流しながら学んでいただく講座です。今年度も 3 回開催予定です。

－5 霞が関シアター

自主上映会での公開を目指し製作されているドキュメンタリー映画、教育・文化映画に上映の機会を提供、自主上映会や製作団体等との共催プログラムとして開催します。上映後は制作者や有識者を招きトークイベントを行います。年数回開催予定。

－6 江戸 TOKYO 散歩～広重「名所江戸百景」と東京の今～

KK^2 開設記念に制作したオリジナル作品「江戸 TOKYO 散歩」は、歌川広重の最高傑作といわれる「名所江戸百景」から春夏秋冬の 12 景をモチーフに紹介、江戸と現在の東京の街なみ、人々

の営みを映像に収めています。すでに、多言語（英語/韓国語/繁体字/簡体字）に対応し、web で公開しています。世界の方に東京の魅力を発信するために、web 会員登録をしなくてもご覧いただけるようにしています。

(5) KK^2 事業の改革

KK^2 事業収入は協賛会費収入とレンタルスペース貸出し収入で賄い、イベント・セミナー参加者にも実費をご負担いただき、一切行政に頼らない運営を行ってきました。ネットワーク&技術提供を株式会社メディアリンクにご支援いただき、協賛メンバーに支えられ活動していますが、昨年度協賛メンバー数が減少しレンタルスペースの稼動も低下しました。

ささやかですが昨年度 PC 席をラウンジからホワイエに移し 8 席から 4 席に減らし、ラウンジに十数名で利用できる TV 会議スペースを新設、レンタルスペースを増やしました。持続可能な事業とするための改革を続けてまいります。

－1 スタジオ貸出

メンバー及び一般に対して、セミナー、会議、交流会(パーティ)等のスペース貸出し及びライブ配信・収録・同時通訳・TV 会議等の技術サービスを行います。

貸出し実績が低迷している現状を踏まえて、PR 活動の強化と料金体系等を見直し、稼働率の向上をめざします。

・開館日：月曜日から土曜日（日曜祝日/年末年始を除く）
・開館時間：07:30～22:00

－2 交流カフェ「エキスパート倶楽部」貸出

一般向けの、ランチ・カフェサービスは、平日 11:30～15：00 に行い、それ以外の時間帯はレンタルスペースとしてご提供（貸切、予約制）します。ランチ・カフェサービス後（15:00 以降）や土日の交流会・パーティ利用について、稼働率の向上をめざします。料飲サービスは株式会社メディアリンクに委託しています。

(6)KK^{2}からの情報発信、その他

－1　KK^2 WEB サイトのリニューアル

いつでもどこでも誰でも学べる学習サイトとして、昨年度リニューアルを行いました。アクセス解析などから得られるデータを活動評価や活動計画策定に活かし、KK^{2}の付加価値とKK^{2}利用者の拡大を目指します。

・学習記録を蓄積する(e ポートフォリオ)機能
・プログラムに対する学習者の評価(アンケート)取得機能
・学習者のコミュニティ機能(facebook 連動)
・コンピテンシー・チェックによる学習ニーズ把握機能
・ネットでのレンタルスペース予約状況確認と利用申し込み機能

－2　メルマガ「メッセージ from KK^2」

毎週金曜日にメールマガジン「メッセージ from KK^2」を発信します。構成は巻頭言「メッセージ from KK^2」「キャリア応援プログラム」「文化プログラム」「ライブセミナー ライブラリ」「文化プログラム ライブラリ」「good books」「交流カフェエキスパート倶楽部」「事務局からのお知らせ」で構成しています。年間発行予定数:約 50 回。

－3　AID ステーション活動(帰宅困難者等一時受け入れ場所)

3.11 東日本大震災発災時に、KK^2 のスタジオ・ラウンジ・エキスパート倶楽部のすべてのスペース・設備・PC/ネット環境・保有する水食料を提供し、帰宅困難者に対する AID ステーション活動を実施しました。

平成 27 年 2 月には、千代田区と「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」を締結し、受入人数 3 日分の水食料や毛布等の備蓄品も準備しました。 また、区の災害対策本部とリアルタイムな情報連携を可能とする無線設備も導入し、AID ステーションとしての充実を図っています。

[平成 22 年 3 月 11 日　AID ステーション活動]

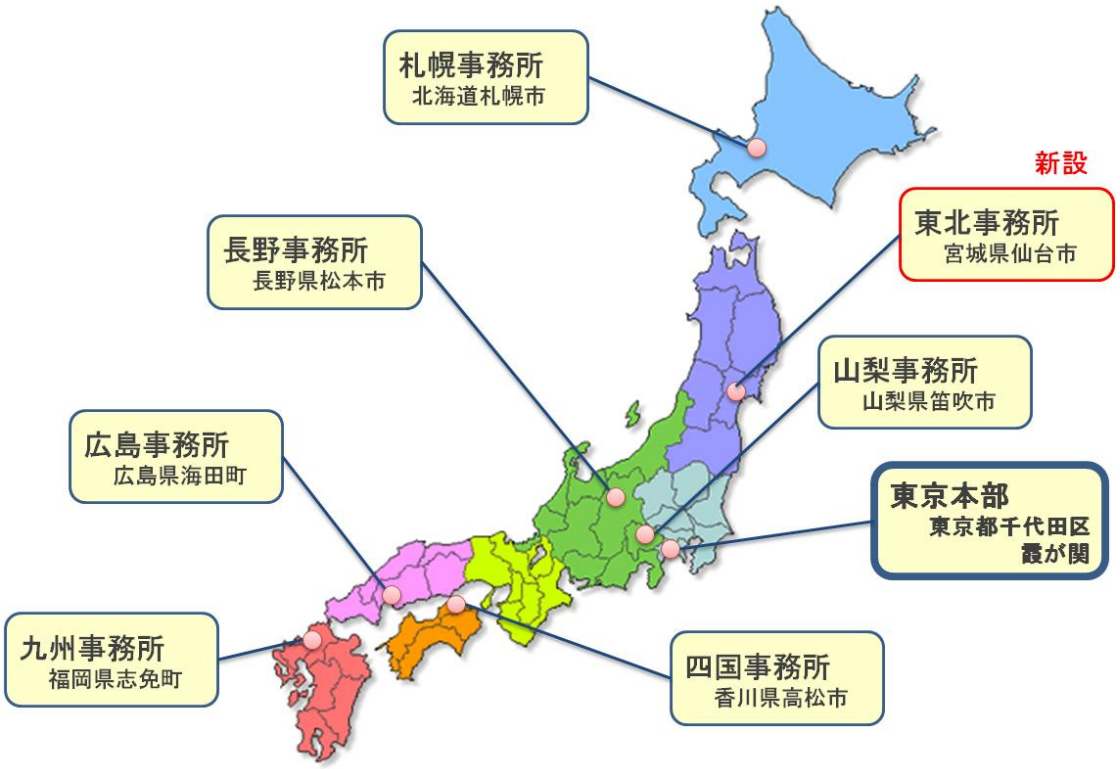
Ⅲ　コンサルティング事業

現在、全国の自治体向けに設計コンサルをする地方拠点として、札幌事務所（札幌）、山梨事務所（笛吹）、広島事務所（広島）、四国事務所（高松）、九州事務所（福岡）を設けており、また長野県松本市には常駐員をおいております。

各事務所の所長は、地元出身者を配置することで、地域の理解とその環境に応じた最適な地元密着型のコンサルスタイルには、ご評価を頂いていることころです。

平成 27 年度からは、地方事務所の空白地域でありました、仙台に東北地方の拠点となる事務所を開設します。

今まで AVCC で培った、自治体情報化、防災分野、セキュリティ分野等のコンサル業務に加え、被災地域の新たなまちづくり及び交流拠点等の構築支援、地域の特産品販路開拓支援、観光振興支援などの地域創生にも貢献できるコンサルを目指し、活動してまいります。



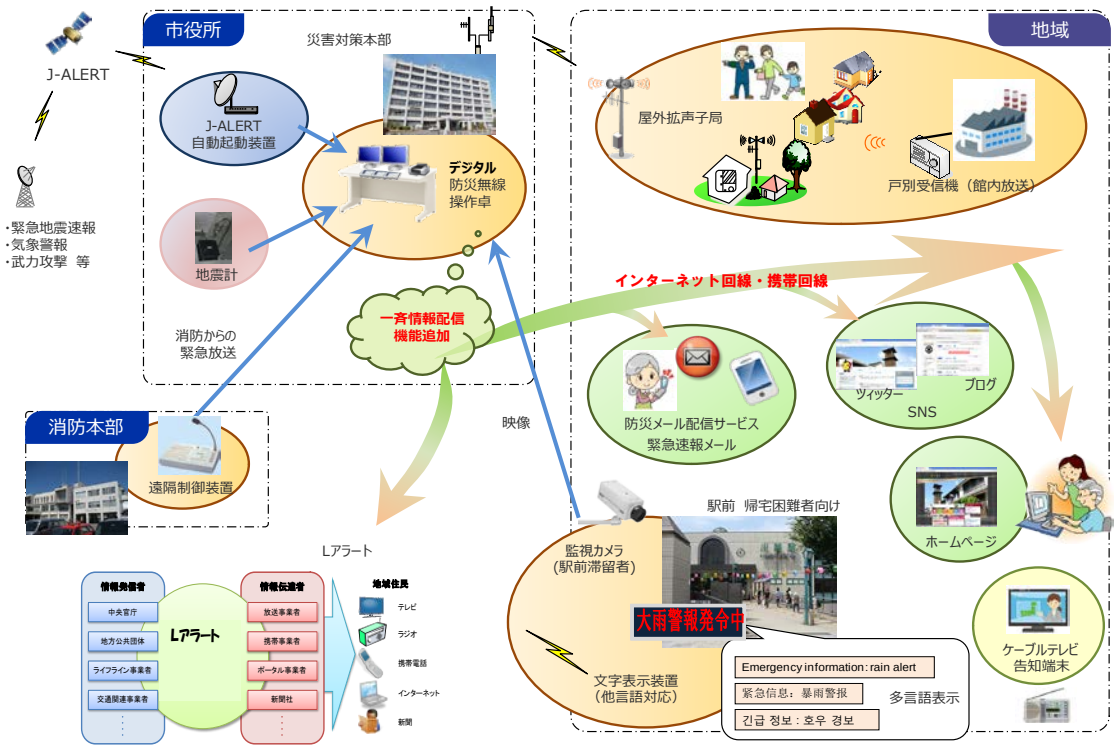
(1)防災情報コンサルティング業務

平成 26 年も多くの台風が発生し、その強風や豪雨により各地で被害が相次ぎました。また、74 人もの死者を出した広島土砂災害。局地的な豪雨がもたらした土砂災害は、改めて自然の猛威を私たちに見せ付けました。さらに、9 月には、噴火災害で戦後最多の 57 人が死亡した、御嶽山の噴火。日本は、火山噴火の多発国で、活火山数は 110 にも及びますが、噴火予知の難しさも浮き彫りにしました。

このような災害現場では、刻々と変化する被災状況をリアルタイムに災害対策本部と連携し、本部での適切な判断、迅速な指示・命令につなげる必要がありますが、往々にして、災害現場は、情報通信環境が整っていない場合も多くあります。

また、平時には快適に利用できる情報通信環境であっても、災害時には設備障害や停電等により、その機能が果たせないことも十分に想定されます。

このような中、AVCC では、あらゆる災害環境を想定し、さらには平時の有効活用も考慮して、それぞれの自治体に最適な災害情報システムの設計コンサルティングを行ってまいります。



(2)システム設計コンサルティング業務

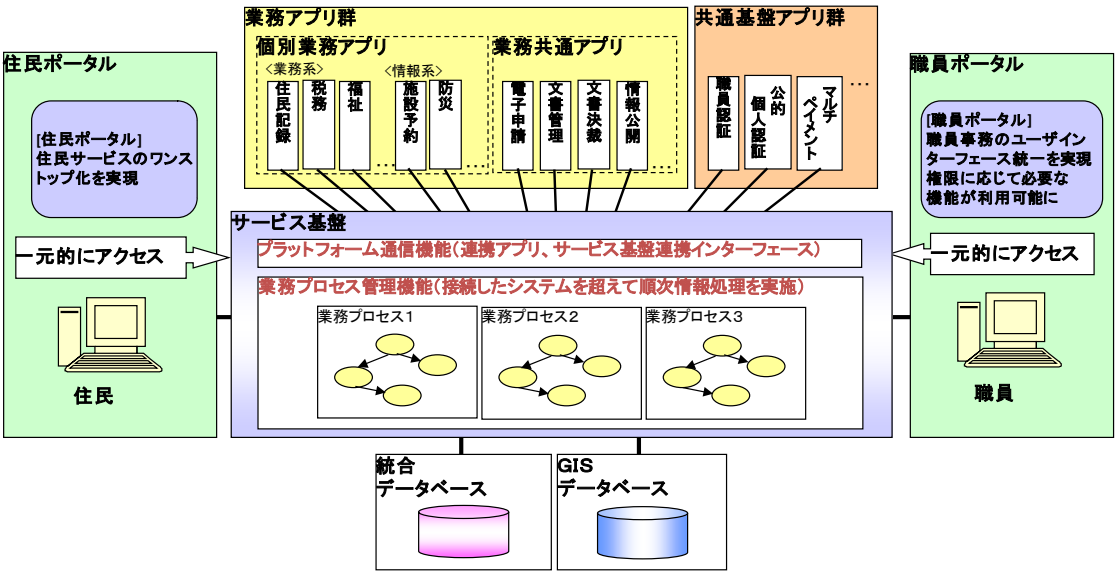
平成 26 年 6 月閣議決定した「世界最先端 IT 国家創造宣言」では、利便性の高い電子行政サービスの提供、国・地方を通じた行政情報システムの改革、政府における IT ガバナンスの強化などが重点項目として盛り込まれています。その中では、マイナンバー制度の利活用の推進、IT 運用コストの大幅な削減、統合化・クラウド化の加速などが具体的な対策として明記されました。

AVCC では、情報システムの品質向上をめざしながら、コスト削減を図るための業務・システムの最適化、さらにはシステム調達の適正化に至るまでの支援を中心に、次のコンサルティング行ってまいります。

－1 基幹システム再構築支援業務

基幹システム更新にあたり、現状分析、RFI(Request For Information)、導入費用・運用費用等のコスト削減等の検討結果を踏まえ、当該自治体に最適な業務・システムを提案し、その調達仕様書及び附帯資料作成支援を行います。

さらには、平成 28 年 1 月から運用が開始されるマイナンバー制度の導入に伴う行政機関のシステム改修に関する支援等にも取り組んでまいります。



－2 電子自治体構築支援業務

電子自治体の推進に伴い、税の電子収納をはじめとするインターネット系の住民サービスシステムの構築やそのバックボーンとしての自治体クラウド導入について、関係経費の削減や事務負担の軽減、さらには住民の利便性向上を目的とし、最適なシステム及びネットワークの構築を支援します。

－3 地域活性化支援業務

ICTを活用した新たな街の活性化を目的として、ICTを活用した新たな街づくりの在り方、その実現に向けた推進方策やシステム構築方策についてコンサルティングを行います。

－4 教育・文化施設等における情報システム構築支援業務

公民館、公共図書館、生涯学習センター、教育センター、学校ならびに企業内教育施設等での情報システム・教育システム導入計画、リニューアル計画等に関連した基本計画、設計、運用計画、維持管理計画の策定業務を行ないます。

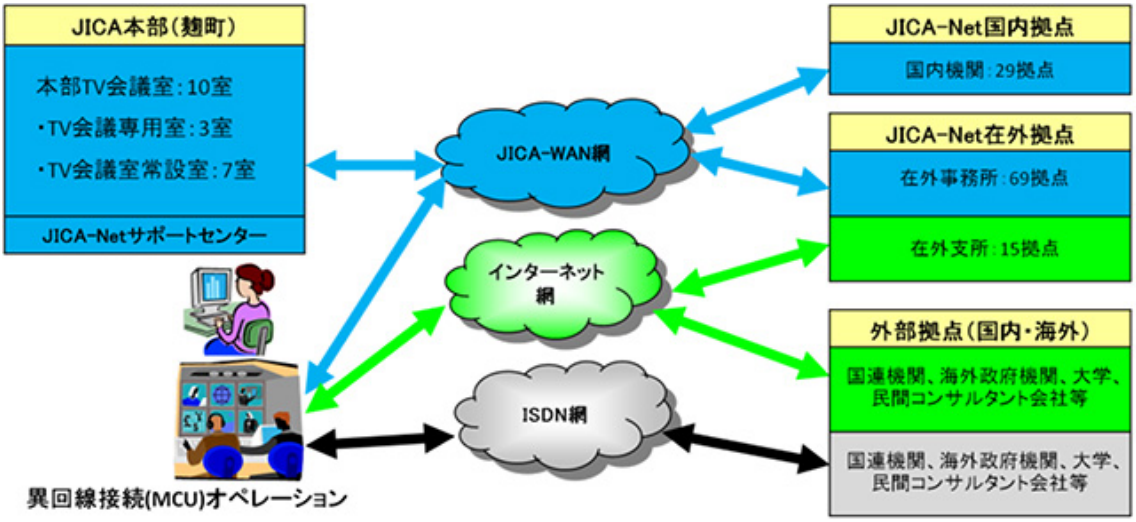
Ⅳ　システム運用保守等支援事業

AVCC では、さまざまな情報システムの運用にあたり、専門的な知識や経験を有した技術者が日々のオペレーションのみならず、日常点検・定期保守などのメンテナンスまでのトータルな支援サービスを提供してまいります。

(1)TV 会議システム運用業務

独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託を受けて、JICA が運用する TV 会議システムの機能を最大限に活用し、より効果的かつ効率的な技術協力、有償資金協力、無償資金協力等の JICA 事業を実現すること、及び事業の機会拡大に資することを目的として、JICA 内に業務従事者を配置し、具体的に以下の TV 会議システム運用支援業務やそれに付随する業務を行います。

・TV 会議接続オペレータ業務、施設管理業務
・TV 会議システム ヘルプデスク業務
・TV 会議室、TV 会議機器更新に伴うコンサルティング業務



(2)情報システム運用保守業務

公共施設、各種団体・企業に設置されているコンピュータネットワークシステムや各種 AV システムを対象に、オペレーションから機器の管理・日常点検業務及び運用業務の支援を行ないます。また、被災地の公民館等においても、同様の活動を行い、自立できる仕組みを検討してまいります。

Ⅴ　情報セキュリティ支援事業

平成 28 年度より利用が開始されるマイナンバー制度は、社会保障がきめ細やかかつ的確に行われる社会、行政に過誤や無駄のない社会、国民にとって利便性の高い社会等の実現を目指し、導入されるものです。 しかしその一方で、番号制度導入により、国家により個人の様々な個人情報が一元管理されるのではないかといった懸念や、財産その他の被害が発生するのではないかといった懸念等も発生しています。

これらの懸念を踏まえ、国民の特定個人情報が適切に取り扱われる安心・信頼できる番号制度の構築のために、業務システムごとのプライバシーに与える影響や個人情報の取り扱い規定の再評価が自治体の喫緊の課題となっています。

AVCC では、自治体のこのようは背景も視野に、次の情報セキュリティコンサルティングメニューを用意しております。

（1）特定個人情報保護評価（PIA）業務

AVCC では、プライバシーマークの認定審査等のノウハウを活かし、プライバシー等に配慮した取扱いを確立するための仕組みづくりをコンサルティングします。 特定個人情報ファイルを保有することで具体的にどのようなリスクがあり、どのような措置を講ずるべきかという、個人情報保護及びプライバシー等保護のための具体的な検討・評価を体系的に行える支援をします。

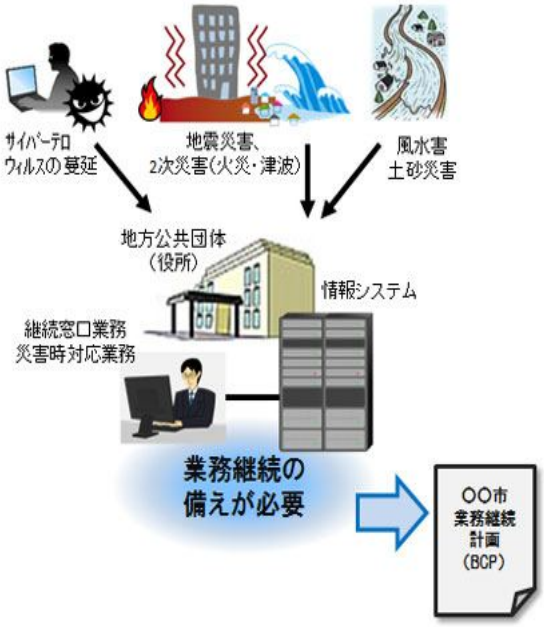
（2）情報セキュリティ外部監査業務

情報セキュリティを維持・管理する仕組みが組織において、適切に整備・運用されているか否かを第三者の立場から点検・評価します。また、情報セキュリティに関する管理及び対策が適切であるか否かを示すとともに、情報セキュリティ上の問題点の指摘と改善の方向性を提言します。

地方公共団体での情報セキュリティ外部監査は、情報セキュリティポリシーの実施状況を点検・評価するものであり、監査項目の設定においては、当該団体の監査テーマに応じた監査項目を情報セキュリティ監査項目から抽出する助言型監査を致します。

(3)ICT 部門における業務継続計画(BCP)作成業務

大規模な災害、事故が発生した場合、組織及び周辺地域の被害により人、物、情報、資金、公共インフラ等が利用できる資源に制約がある状況に陥ることが予想される。ICT 部門における BCP 作成は、いかなる緊急時の状況においても、中断させることができない、あるいは復旧を優先すべき重要業務を事前に特定することが肝要です。事前のバックアップ準備やリスク軽減、事後の災害時応急対応、復旧手順の明確化、指揮命令系統の確保等の計画等を定め、被災の影響を最小限にとどめることを助言しながら、BCP の作成を支援いたします。



(4)プライバシーマーク認定審査支援業務

一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)及一般財団法人放送セキュリティセンターが行なっている、個人情報を適切に取り扱っている組織を一定の基準で認定し、プライバシーマークの使用を許諾する制度に係る審査業務を支援します。

(5)情報セキュリティ/個人情報保護等研修支援業務

行政機関や民間企業の情報セキュリティ/個人情報保護に関する研修を行ないます。意識づけ研修から顧客の環境に合わせたケーススタディ演習まで、さまざまな状況に応じた研修を実施します。

Ⅵ　教育プログラム・WEB プラットフォーム企画構築事業

各種団体機関等の教育訓練・広報といった分野において、教育目的にふさわしい、効果的なプログラムの企画・制作を行います。併せて、インターネット等の技術を活用し、いかに教育効果を高めるかについて、インストラクション・デザインに基づいた企画提案も行います。

(1)教育プログラム企画制作事業(DVD 制作/WEB コンテンツ制作)

人材育成を中心に、リクルーティングや広報 PR に資する映像プログラムの企画制作を行います。また、教育目的を実現するために効果的な WEB 学習システムの企画提案を行います。

(2)オンライン学習サービスの提供

いつでもどこでも学べる、学習履歴の管理が行えるオンライン学習サービスを提供します。全国にいる各種資格取得者向けの継続教育や、多忙な業務で研修時間が取れない職員の研修などに活用いただけます。KK^2 の既存プログラムと独自に開発したプログラムを組み合わせて、短期間に低コストでオリジナルオンライン学習サービスを提供してまいります。

(3)統合 WEB インフラ構築支援

KK^2 の WEB サイトで活用しているコンテンツ管理システムは、多機能の統合 WEB インフラです。その用途は企業や官公庁の情報サイトのみならず、ポータルサイトや EC サイトといった幅広い分野での適用が可能であり、コンテンツ管理機能、パーソナライズ機能、WEB2.0 対応コミュニティ機能との連携により、その用途は一段と多様化することが可能です。KK2 サイト構築の経験を活かし、統合 WEB インフラ構築を支援します。　　以上